

歴史ある雪まつりを振り返る

今年の雪まつりは残念ながら中止となりましたが、例年雪まつりのステージを盛り上げる伝統芸能や雪まつりのメインステージを彩る大雪像をご紹介します。ご家族やご友人と雪まつりの思い出をしながら、雪まつり気分を味わってください。

只見町の二大イベント

『只見ふるさと雪まつり』

毎年2月第2土・日曜（前夜祭・金曜）で開催されている「只見ふるさと雪まつり」は、町民一丸となって盛り上げる只

今年は…

「雪まつり中止」

苦渋の決断

雪まつり実行委員会は、今年の雪まつりの開催について各県庁から発表されている新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドラインと照らし合わせ、開催に向けて検討を進めました。

しかし、開催するためにクリアしなければならない課題も多く、また感染が拡大している状況を鑑み、町民や来場者の安心・安全を最優先とし、雪まつり史上初の中止という、苦渋の決断となりました。



見町の一大イベントで、町内外問わず多くの方が楽しみにしており、毎年2万人を超える来場者が訪れます。

福島県内では最も歴史と伝統のある雪まつりで、伝統芸能発表や音楽ライブ、お笑いショー等が行われ、両日とも最後に祈願花火が雪まつりを盛り上げます。

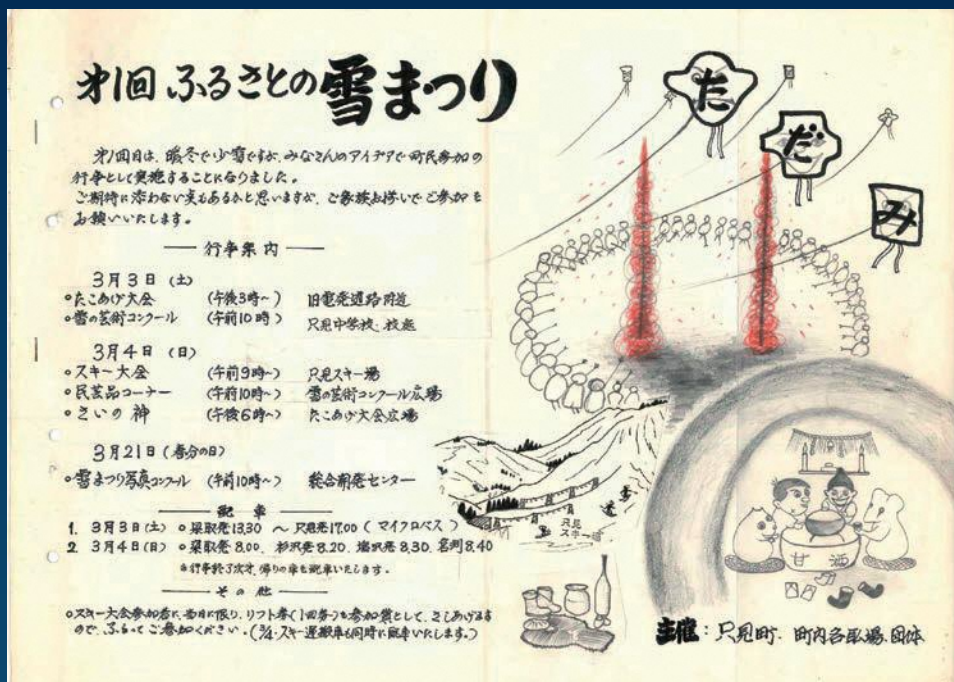
厄払いの儀

厄払いの儀は、数え42歳の厄年を迎えた男衆が神主より厄払いを受け「ハンダコ姿」の厄男衆が松明の灯りを手に会場内のかがり火を灯しながら入場します。厄男衆の体に触れた人はその年1年良いことがあるといわれています。



雪まつり開催のきっかけと

第1回雪まつり



▲第1回ふるさとの雪まつりのチラシ。「さいの神」の様子や「かまくら」のイラストだけでなく文字も全て手書きで描かれています。

雪まつり開催のきっかけ

当時の只見町の冬は、現在よりも積雪量が非常に多く、軒下まで雪に埋まるため、暗くさびしいというイメージがありました。そのイメージを変えたいと願う地元民から、「観光地として、豪雪地帯只見町の名に恥じない雪を活用したものを考えよう」と声があがり、計画されたのが始まりです。

催しや内容について、秋田県横手市や新潟県十日町市等の雪まつりを参考にしつつ、町民アンケートで意見を出してもらい、町民の皆さんが楽しめる雪まつりを目指しました。そして、昭和48年3月3、4日の2日間で第1回「ふるさとの雪まつり」が開催されました。

第1回の雪まつりでは、小・中・高校生や地元企業の皆さんが作



▲第2回ふるさとの雪まつりのチラシ。2月へ日程を移し開催されました。これ以降の雪まつりは2月開催で行われています。

り上げた雪像が立ち並ぶ雪の芸術コンクールが会場を彩りました。他にもたこあげ大会、民芸品販売が行われ、さいの神がフィナーレを飾りました。

町民総参加で作り上げるというコンセプトは今も受け継がれており、雪まつりが近くなると町内各地で雪像などが作成され、雪まつりを盛り上げます。

雪まつりを彩る歴代の大雪像

只見ふるさとの雪まつりといえば、目玉の1つとして挙げられるのが大雪像です。

第1回～3回は、地元企業や小・中・高校生によって雪像やかまくらが作られました。第4回からは、自衛隊の協力を受けながら大雪像が作成され、今では町内の建設会社や地元の大工、左官屋等の協力によって作成されています。

町民からのアイデアにより田子倉ダムや水久保城といった只見町に縁のある雪像から、竜宮城、ピラミッドなど、バラエティに富んだ様々な大雪像が只見ふるさとの雪まつりを盛り上げてきました。



▲第16回雪まつりは、ソウルオリンピック開催にちなんで「韓国光化門」が作成されました。



▲第41回雪まつりは、「八重の桜」主人公の夫が設立した「同志社大学」が会場を飾りました。

時代を写した大雪像



▲第43回雪まつりは、東京駅開業100周年に合わせ「東京駅」が大雪像に選ばれました。



▲第47回雪まつりの北海道赤れんが庁舎は、胆振東部地震復興応援をテーマに作成されました。

第1回	かまくらと雪の芸術展	第17回	凱旋門	第33回	スノーキャッスル
第2回	かまくらと雪の芸術展	第18回	アルハンブラ宮殿	第34回	只見大聖堂
第3回	かまくらと雪の芸術展	第19回	台湾 中正記念堂	第35回	布施弁天
第4回	竜宮城	第20回	朝鮮凱旋	第36回	紫禁城
第5回	灯台	第21回	エジプトピラミッド	第37回	田子倉ダムと叶津番所
第6回	竜宮城	第22回	パレスチナの黄金ドーム	第38回	水久保城
第7回	田子倉ダム	第23回	顕仁門	第39回	タージマハル寺院
第8回	成法寺聖観音菩薩座像	第24回	タージマハル寺院	第40回	ノイシュバンシュタイン城
第9回	水久保城	第25回	沖縄首里城「久慶門」	第41回	同志社大学
第10回	「雪の殿堂」只見観光ホテル	第26回	アンコールワット	第42回	パリ オペラ座
第11回	只見国会議事堂	第27回	竜宮城	第43回	東京駅
第12回	只見城	第28回	守礼之門	第44回	サン・マルコ寺院
第13回	万里の長城	第29回	納沙布岬と北方領土	第45回	熊本城
第14回	インド敬寺院	第30回	塩野崎灯台	第46回	鶴ヶ城
第15回	天安門	第31回	田子倉ダム	第47回	北海道旧本庁舎「赤れんが庁舎」
第16回	韓国光化門	第32回	SL3重奏	第48回	東京駅丸ノ内中央口

貴重！郷土芸能発表

只見町では、各地に生活や信仰の中から生まれた郷土芸能が多く残されており、歴史の深さと文化の豊かさを垣間見ることが出来ます。雪まつりのステージでは、様々な郷土芸能が披露されます。中でも、「小林早乙女踊り」と「梁取太々神楽」は福島県の無形民俗文化財に登録されており、本来であれば決まった奉納日等に披露されるもののため、雪まつり会場で見られるというのは貴重なものです。

無形民俗文化財① 梁取太々神楽

だいたい



梁取太々神楽は、鹿島神社（南会津町）の20年毎に行われるご遷宮の際に奉納される由緒ある獅子神楽で、160年以上の歴史があると言われています。直近では、平成26年9月のご遷宮の際に奉納されました。

「四方固め」、「弊舞（へいまい）」、「鈴舞」、「狂い」と続く神事的色合いの強いものですが、最後にひよつとこが登場し、余興的な一面を見せます。

現在は、梁取芸能保存会の皆さんによって、大切に受け継がれています。

無形民俗文化財② 小林早乙女踊り

昔、6月から9月の初め頃まで気温が低く、冷たい雨が降り続き大凶作となつた年があり、稲作を中心とした農業で生計を立てていた小林集落は生活もままならなくなつてしまいました。

そこで集落の人々はこのような凶作が2度と無いようにとの祈りを込め、作立祝いとして、その年の豊年満作と集落の家内安全を祈念して若連中が主として踊られたのが「小林早乙女踊り」といわれており、毎年旧正月14日の夜に踊られるようになりました。



早乙女とは「若い女性」のことを指しますが、明治の初めころ「女性が踊ると不作になる」という年があり、以来男性が女装して舞うようになったそうです。男性二人を若い女性に見立て踊り子とし、道化と晴れ着でうたにあわせて身振り手振り手真似面白く、稲の種おろしから田植えまで作付けを踊ります。

昭和35年9月に保存会が結成され、現在も伝統が受け継がれています。



雪まつりを盛り上げるイベントの数々



▲オープニングセレモニーでは、鏡開きや福もちまきが行われます。



▲たくさんの郷土芸能が雪まつりを盛り上げます。左：会場に音色を轟かす天領只見仙嶽太鼓 右：ステージを華やかに彩る蒲生花輪踊り



▲雪まつりのフィナーレを飾るのは、祈願花火大会です。皆さんの願い事やお祝い事などのメッセージと共に冬の夜空に打ち上げます。



▼第8回の雪まつり。花火大会はこの頃から始められました。

◀会場内でも多くのイベントが行われています。(雪玉ストラックアウト)



▲地元の味や工芸品が楽しめるゆきんこ市は多くの人で賑わいます。



▲第19回から行われ続け、今では、目玉の一つ雪中大神輿。町民だけでなく、来場者も一緒に担いでいます。

来年こそは！
町民一丸となって第1回から作り上げられてきた雪まつりが、今では只見町の冬の一大イベントとなりました。
新型コロナウイルスの影響で今年は中止となってしまいましたが、受け継がれた歴史を繋いでいけるよう、来年こそは開催できるように改めて町民一丸となり、難局を乗り越えていきましよう。

過去にはこんなものがありました！



▲大雪像...ではなく、巨大スクリーンです。映画鑑賞会が行われました。鑑賞していた方は「寒かったけど面白かった」とのことです。

▼自宅へ電話がかけられるふるさと便り通話コーナーです。ご来場された方が、ご家族へ雪まつりの感想や近況報告するのに賑わいました。

